

一般質問

音嶋 正吾 議員



◎長崎国体への取り組み

①国体競技開催招致を地方再生の起爆剤と位置付けるべき。市長の燃えたる熱意は如何に。
戦略的取り組みについて質す。

②国体準備室は教育委員会、社会教育課の下部組織である。戦略的取り組み上からも、市長部局直轄に格上げすべき。



長崎国体キャラクターの「がんばくん」

③本市の大会運営上の財政負担の試算金額について質す。

A みなぎる情熱をもつて取り組み

市長

①全市民を巻き込んで、苓岐市の一体感を醸成する取り組みを期す。文化・産業・観光等、苓岐市の知名度アップを図る。
②綿密な連携を図り、現時点では教育委員会部局として対処するが、課としての格上げを検討する。
③自転車競技では2千700万円程度100%の補助率。ソフトボール競技は3千600万円程度で補助率は三分の二である。

◎座して死を待つより打って出よ

市民病院は、開院以来連続赤字決算である。地方独立行政法人化に舵を切るべき。市民病院の経営形態を住民投票条例で市民に問うことも選択肢とすべき。市長の決断は。

A 憂慮しつつも

市長

現状の累積債務、経営状況に対して大変憂慮しているが、住民投票は馴染まないと考える。

◎補助金の交付基準

①各町老人会連合会補助金交付基準を質す。
②活動状況、政策評価を考慮した補助金交付を如何に反映させているか。
③生きがいを持って暮らせる高齢者福祉の充実を目指すべき。
活動実態に即した、公平公正な補助金交付すべき。

A 基準を見直す

市長

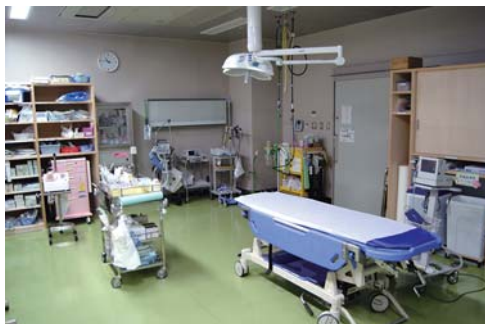
①現在補助金交付要綱を設けていない。旧町当時の活動を参考にして交付している。
②決算資料、活動報告書の提出を求め交付。
③老人クラブ活性化なくして、老人福祉の充実はないと考える。指摘事項を検証し交付基準を見直したい。

町田 正一 議員



◎市民病院改革

①独立法人化を目指した長氏（元総務省地方公営企業経営アドバイザー）を委員長とする病院改革委員会の経営改革答申については見直すべき。
②国民健康保険は5.3%値上げしたにもかかわらず、更に基金は6億から2億



市民病院の処置室(救急患者が最初に運び込まれる部屋)

9千万円に減少し本年度で基金は底をつく状況。市民病院の役割を、予防・救急・訪問医療等に特化する考えは。
③現在の市民病院の救急体制と初期救急を担う民間病院の状況。
④市民病院の経営をどうするかではなく、苓岐医療圏全体の中でどうあるべきかを考える時期。地元医師会、市民病院、行政、議会が一体となって平成19年9月に出された審議会の答申をたたき台に公設民営化を議論すべき時期である。結論を半年ぐらいで出す審議会を考える事が必要。

A 新たな一歩を

市長

①病院改革が進んでいない事は謙虚に認める。
長委員長の答申については評価している。

しかし、九大第二外科は「苓岐市等から受けた仕打ちは*トラウマだ。苓岐市に医師の派遣はできない。」とはっきり言われた。よって九大との交渉では、独法の理事長招聘は不可能。
②市民病院の役割について議論する時期に来ているが、一般外来を止める状況にはない。
③市民病院と光武病院を二次救急としているが、実状は初期救急まで含めている。年間1千501人の救急患者のうち市民病院835件、光武病院492件、その他174件で受入。
現在市民病院の救急維持のため、非常勤医師の確保に年間3千840万円がかかっている。
④提案を受け新たな一歩を踏み出す気持ちになった。議会の協力をお願いする。

*心理的に大きな打撃を受け影響が長く残ること

瀬戸口和幸 議員



Q 生姜貯蔵施設の
利用

郷ノ浦町若松にある生姜貯蔵施設は、整備後25年が経つがほとんど有効

利用されていない。本来目的の生姜を貯蔵するか、イチゴ苗の低温貯蔵による生産コントロールをするか、その他作物の一時保管等による利用を促進し、農業振興の面からも本施設の利活用を図るべきである。

A 研究・協議したい

旧郷ノ浦町で整備され

市長



郷ノ浦町若松触の生姜倉庫

た施設であり、J A 壱岐市に管理委託している。施設も老朽化しており、利用率も著しく低下している。J A 壱岐市と施設利用を協議したい。

Q 統廃合後の施設は

中学校の統廃合後、廃校となる6校の施設の利用の具体案の検討状況を問う。各校毎の利用案の概要と事後の手続等の進め方はどうなるのか。

A 地域の意見を

教育長

学校施設跡地等利用検討部会で検討頂いている。その上部組織である準備委員会の要望を教育委員会が取りまとめ、市長部局と協議段階である。各地域の要望、利用計画実施要領を作成して、地域活性化の拠点となるよう、市長部局、教育委員会と協議して方向性を示していきたい。

今西 菊乃 議員



Q 保育所・幼稚園

①120名以上の保育士を必要としているが満たしていない。現在の雇用条件での確保は困難ではないか。対策は。

A ②子ども家庭課で対応

市長

保育士を必要とする。統合して園児数の調整が必要。幼稚園給食を行い、保育所の4歳5歳を幼稚園に受け入れれば、不足している0歳児預かりが可能である。今後の方針は。

Q 液肥対策

平成24年度より液肥が半分以上となる。今でも散布が半年待ちとなっている。需要があるのだから既存の施設を活用した対策を。

A 結論は厳しい

市長

液肥の問題と、し尿処理の問題とは別。農家の気持ちはわかるが、し尿処理と別に液肥をつくるとなると、コストや肥料成分の面から現在の価格では困難。結論は厳しいと言わざるをえない。



先生と楽しく遊んでるよ~!!

職員の募集をして
いるが6
名が不足
現在ハロ
ーワーク
を通じて
無資格者
の保育助
手も含め
て募集。
②市民ニ
ーズに沿

豊坂 敏文 議員



入しようというものであり、慎重に要綱を策定していく。

可能である。

Q 有害鳥獣被害状況と対策

イノシシ、シカ、リス、カラスそれぞれの被害状況と対策は。

A 情報提供を

市長

イノシシの生息数は不明であるが、しのび猟での捕獲、シカは約300頭が生息しておりハンターによる捕獲、リスとカラスについては、平成22年度の捕獲実績で、カラス3千17羽、リス6千585匹である。

A 趣旨に反する

市長

通学バスの趣旨を理解いただくとともに、高齢者はワンコイン乗車制度

久保田恒憲 議員



を御利用いただきたい。

Q 連絡協議会の設置を

市の活性化に欠かせないボランティアの方々との結束のため、市が取りまとめる協議会が必要だ。

A 前向きに検討

市長

各団体それぞれ目的の違いはあるが、互いの交流学習を深め、活動や課題を共有して、ともに協力し助け合うための連絡協議会の設置を前向きに検討する。

Q 博物館入館料の統一

鳥外来館者が高いのは失礼。おもてなしの心に反する

料金設定は即時撤廃し、同一料金とすべし。

A 市費投入を考慮

教育長

入館料は、市の規則で指定管理者の提案を受けて市が承認し

設定された。市費を投入して整備した博物館などで市民を優遇。差額分は、リピーター確保や情報発信広報PR事業に還元されている。

Q 建国記念日の取り組み

建国記念日、独立記念日、革命記念日と呼び方は違うが、各国でその国の成立記念の日を定めている。小中学校の義務教育の場での取り組みは、また、市としての取り組みも無いが、今後の方針は。

A 各自で取り組みを

市長

子どもたちの情操教育の観点からも国を愛する心を養うことは大変重要であるが、現在市として特別な行事などは無い。

教育長

子どもの発達段階に合わせ、祝日の前に自分の郷土、彦岐や国の歴史、伝統文化に目を向けさせるなど、事前指導を行っている。

Q 日本初

「認定漁業者制度」

漁業就業者の半数は70歳以上である。認定要件を70歳未満に緩和すべきであり、各組合の正組合員の就業日数90日以上とすべき。

A 迷惑をかける

市長

①保険の適用範囲を詳細に調べ、個人・公民館に迷惑がかからないように、マニュアルを作成する。

A ただ今、進行中

市長

②必要なサービス申し込みをすると無料になる。

③ソフトバンクと難聴地域の改善について協議をして

いる。通信網については全国どこでも光を使うので瞬時につながる。

④FM告知放送の設備を入れるので、組合員への放送は

芦辺町つばさ横に拠点を設け、市内各地にケーブルを接続



芦辺町つばさ横に拠点を設け、市内各地にケーブルを接続

一支国博物館の受付案内



榊原 伸議員



◎ 発展させよ観光

①観光案内板について、都会の高速道路への案内標識のように、今の大きな青看板の中に「支国博物館」への案内を入れるべき。

②観光案内所の場所は、誰にでも解り易いように



郷ノ浦港にある吉岐市観光協会

すべき。

③開所予定の福岡事務所では、九州新幹線鹿児島ルート全線開業を利用して博多駅に絞って宣伝活動をすべき。

④観光の目玉として、石田町の松永安左右衛門翁の実績と功績をもっと世に広め、松永翁と関わりのある電気関係の事業所、長崎県、他の自治体へのアプローチが必要ではないか。

◎ 今後の下水道事業

する

市長

③ 吉岐があるという宣伝も大事。

④ 松永安左右衛門翁は、日本を代表する実業家である。もっと吉岐出身者ということを情報発信したい。

◎ 今後の下水道事業

①下水道加入率と今後の取り組みはどのようになるのか。

②芦辺地区の漁業集落排水整備の現状と今後の取り組みはどうなっているのか。

◎ 70%を目指す

市長

①道路の看板については景観を損なわないように県と協議をする。

②吉岐を売り出すように観光協会と協議して工夫する。

③九州新幹線で博多駅を利用する人は多いので、福岡のすぐ先に

①郷ノ浦の公共下水道は計画の見直しをし、南部処理区の一部(吉岐高校の上側)を中央処理区に取り込む。

②瀬戸地区は、平成23年度供用開始を予定、芦辺地区においては、地元ともう少し協議をしたい。

③ どちらの下水道事業についても加入率70%を目指す。

鵜瀬 和博議員



◎ どんった定住促進

①平成22年3月一般質問で市長は、平成22年度中に総合的な就業対策と住居対策を合わせた定住促進策を検討し、対象者拡大を充実していきたいと答弁。その後の進捗状況は。

②平成22年国勢調査では本市人口が3万人を割った。施政方針では今後関係機関と連携し、人口歯



観光地として展望を開きたい湯ノ本地区

止めに努力するとあるが、具体策は。

③ 独身単身専用の政策住宅として県営田の上住宅の活用を。

◎ 具体策がない

市長

① 島外通勤通学者交通費助成を創設しただけで具体的には何も進んでいない。

② 新たな定住促進策を23年度は掲げることができない。具体策が出来ればすぐに予算化したい。

③ 県営住宅の活用を県と協議し、政策的に試験的にでも実施したい。

◎ 閉校後の活用は

① 統廃合準備委員会の協議経過及び結果は。

② 閉校後の管理はどうするのか。

③ 芸術文化の新たな発信基地やサテライト大学としての活用は。

④ 休止中のサンドーム吉岐やリニューアル予定の吉岐島荘、特別養護老人ホームを含めた湯ノ本地区の展望は。

◎ 協議中

教育長

① 渡良・沼津・初山中は、地区民センター、道の駅、カルチャーセンター、学童保育として、鯨伏中は、体育館運動場を鯨伏地区民の施設として、箱崎・那賀中は校舎一部利用と体育館、運動場を教育委員会管理として、運動場にナイター設置を要望。今後の活用は市と協議し活用計画を策定する。

市長

② 体育館、運動場は社会教育への移管、その他学校施設管理は教育委員会。

③ 統廃合準備委員会の要望を尊重し、保護者、地区、公民館と協議し、時間をかけて有効利用と要望に込めたい。また、空き施設は長崎大学等と積極的に連携を図り、その研究の成果を地域の課題解決や施策へ反映したい。

④ 名案はないが、温泉とすばらしい眺望に加え、他の観光施設と連携する形で今後も魅力向上に努める。

市山 繁議員



A 強く要望

市長

公共事業予算確保について国県へ強く訴えている。農水産商工業との連携も重要な施策であり、県の政策に呼応する形で考えていく。

Q 雇用の創出

吉岐島には男性の雇用の場が少なく、男性雇用につながる公共事業の拡大と、農水産商工業との連携・強化、新分野の進出支援策は。

Q 民間業務委託

全国的に経費節減等専門的雇用サービス面から、民間業務委託をしているのが市の取り組みは。

A 積極的に取り組む

市長

現在15の施設で指定管理を行っているが、離島地域であるため民間委託が進まない。特別養護老人ホームは民間で十分やれると思う。これからも積極的に取り組む。

公共事業で雇用の場を



Q 超過勤務の状況について

① 職員の削減で、

職場のサービス低下及び超過勤務が増加していないか。

② 超過勤務の労働時間の規定と業務管理は。

A 削減に努めている

市長

① 職員の削減によってサービスの低下を招いてはならない。削減に比例して時間外勤務が増えていることはない。

② 年間240時間を超えないように努め、上司の決裁により実施。

Q 梅屋庄吉・孫文

中国の革命政治家・孫文を物心面で支援した梅屋庄吉の妻が勝本町出身である。県の辛亥革命100周年事業に市としての協力は。

A 県と連携

市長

積極的に県と連携して情報発信に努め、交流人口の拡大に繋げたい。

呼子 好議員



Q 獣医師の確保

① 肉用牛の振興とあわせ獣医師の確保は重要である。獣医師定員11名に8名、業務が多忙で農家への対応が遅れる。獣医師の健康問題もあるので増員対策を。

② 獣医師修学資金貸与の増額を。現在年額26万8千円を月額10万円に増額し、学生・学校に周知を図り後継者育成を。

③ 卒後の教育について、臨床研修6ヶ月の支援を。

④ 診療所事務職員の事業量等、責任の度合いから見て正職員化は出来ないか。

A 確保に努める

市長

① 大動物診療獣医師は全国的に厳しい。当面診療補助員を配置して業務の効率化を図る。

② 医師・看護師等の修学資金に比べ安いので研究したい。県の獣医師修学資金制度についても周知を図る。

③ 臨床研修等に職員を派遣して、診療技術の向上を図る。

④ 本来、市の業務には正職員の配置を基本とするが、診療所は現在の体制を維持したい。

Q 県道整備早急に

① 郷ノ浦ノ渡良浦線は残り40m、郷ノ浦ノ初瀬線は9割が未整備。危険な箇所から早期整備を県に強く要望してほしい。

② 大災害発生時の折、建設業者との支援体制の協定は出来ているか。

A 精力的に陳情

市長

① 地区公民館からも要望書が来ており、本路線はバス路線でもあり見通しも悪く、要改良路線との認識はあるが、県単独事業で局部的な改良を検討しているとの回答を受け、精力的に陳情を行う。

② 吉岐地域災害支援協定を土木関係19業者、管工事で17業者と締結し迅速に対応する体制を取っている。

診察中の獣医



中村出征雄 議員



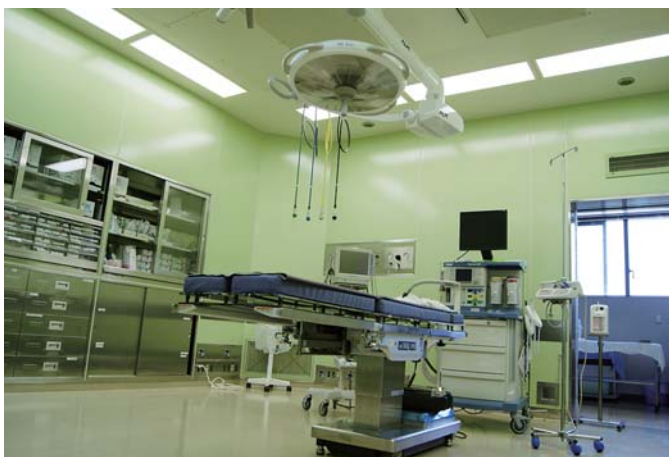
◎ 病院改革の方向性

①長崎県病院企業団の旧離島医療圏組合加入の9病院の医師数は、平成20年5月1日現在102名であったが現在は何名か。

②平成23年度予算について、一般会計繰入金金は4億9千万円で1億5千900万円の赤字計上。年度末の累積赤字は21億8千万円の見込みで、数年後には30億円近くの累積赤字になるのでは。

③杵岐市民病院の方向性について、長崎県病院事業団に直ちに加入し改革すべき。

④職務に応じた給与格付をわたり運用している病



市民病院の手術室

院職員給与構造を早急に改革すべし。

⑤齋藤市民病院顧問の、病院改革の最終的なまとめ、提言等はいつ頃になるのか。

A 憂慮すべき状況

市長

①平成22年12月現在、89名で13名の減。医療圏組合所属の医師は把握していない。

②経営形態の変更など抜本的な改革を行わない限り、この状況は続くと予想される。

③財産の移譲や責務の問題など調整すべき事項が多い。慎重に考えたい。

④職員給与の見直しは重要な課題。職員組合とも話し合っていきたい。

⑤現在も指導・助言を頂いており、適宜指導を受けるようにしていくため最終的助言等、特に期限は決めてない。

久間 進 議員



◎ 三島に診療所を

三島地区は高齢化に伴い、独居・2人暮らしの方々にとってはフェリーでの通院等が困難である。

A 開設したい

市長

特に大島は、65歳以上の高齢者が50%を占めており診療所の開設が急務である。医師の確保については光風に、施設については漁協の有休施設をそれぞれ内諾を得ている。まずは週1回の出張診療の開設を。

◎ 待合所の改善を

現在のフェリーみしま

待合所はテレビ空調設備が整い若者には申し分ないが、高齢者や病人にとっては3時間以上の待ち時間の時は、イスでは横にもなりにくく大変。待合所の一部に畳スペースの確保はできないか。

A 設置を検討する

市長

高齢者向けの待合室の必要性は感じている。みしま航路は、国県の補助事業であり協議の上、設置を考えたい。



フェリーみしま待合所